

第3回 市民運営協議会（男女共同参画センター横浜南） 【開催日】 2019年2月7日（木）

【議題】 地域や市民活動との連携について

【説明】 「地域や市民活動との連携」を主なテーマとし、以下の次第で進行しました。

- 1 センターからの現況報告（設備更新等の改修工事について、『めぐカフェ』就労体験修了者調査報告書）の刊行について
- 2 委員の活動紹介（服部委員（みなみ～な）、中村副会長（なか国際交流ラウンジ））
- 3 地域や市民活動との連携について、説明と意見交換

【意見交換の概要】

地域や市民活動と連携した当センターの取組について、写真を交えて説明。委員の方々の活動と照らしあわせながら、特に外国人女性への支援についてご意見をいただきました。

・子育て支援拠点「はぐはぐの樹」は利用の8割が母親。自由に使える「掲示板」が人気で、母親同士幼稚園等の情報交換が行われている。外国人女性も、1日に3人程度の利用がある。HPも外国人女性（母親）が見てもわかるよう、多言語で基本情報を掲載している。

・たとえば子育て支援の現場で「同じ国の方同士だから」と母親をスタッフが引き合わせても、それがよいとは限らない。むしろ日本人の知り合いを作りたいこともある。

・生活をするにも、仕事を探すにも言葉の問題（話せない、わからない）は大きい。10月に男女共同参画センターが「みなみラウンジ」で仕事の相談を通訳付きで実施したそうだが、外国人女性に役立つ支援だったと思う。

・「なかラウンジ」で外国につながる若者たちと関わっている。そこで感じるのは、日本人向けのイベント等はチラシが楽しいものになっているのに、外国人に対しては「注意」「ルール」のものが多く。外国人女性などの困りごとを解決しようと考えるときに、その背景には文化・慣習の違いがあることも知ってほしい。

・外国人支援の現場で必要とされるのは「なぜそのルールがあるのか」という説明と、お互いを理解することからのスタート。そのためには、地域の人と知り合う機会や、安心して参加できる場があるとよい。外国につながる若者と地域とをつなぐ事業に携わる中で、「支援する」のではなく「地域に関わり、その担い手になってもらう」ことが、共に暮らすためのキーワードと感じている。

・子どもの教育にも言葉の壁の問題がある。子どもは学校で日本語が上達していくが、母親は家において言葉を覚えられず、コミュニケーションの不安を抱えたり、日本語と母国語のどちらを学ばせればよいか一人で悩んだりするケースも少なくない。

（事務局より）

・「外国人女性のためにどんな支援ができるか」と考えてきたが、みなさまのお話を伺って「特別な何かを始める」というより、ふだんからセンターで行う「女性としごと応援デスク」や「心とからだと生き方の相談」を言葉の心配なく利用できること、また館内やHPの表示を多言語対応にするなどが、実現可能かつ求められる支援ではないかと感じました。館内表示を修正する、相談には必要に応じて通訳をつける等、すぐにできることから始めたいと思います。

【特記事項】 特になし。

【次回のご案内】 第4回 市民運営協議会

日時：2019年7月（日時未定）※4月以降に調整

会場：男女共同参画センター横浜南（会場未定）

議題：「センターの施設利用の促進について」（今期の最終回）